

## 第 24 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名		第 24 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和3年 2 月 22 日(月) 14:00～16:00		
開催場所		精華町役場 図書館集会室		
出席者	委員	上甫木委員長、岩本副委員長、畑中委員、寺本 和生委員、寺本 英樹委員、 中筋委員(代理)、信田委員、鷹居委員、山本委員 (敬称略・順不同)		
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長		
		精華町 健康福祉環境部 環境推進課 竹島課長、藤原、佐藤 (敬称略)		
		(株)地域計画建築研究所(アルパック) : 中川 (敬称略)		
欠席者				
傍聴の可否		可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合、その理由				
会議次第		<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">① 精華町の環境(令和元年度分)について</p> <p style="padding-left: 20px;">② 第2次精華町環境基本計画(案)について</p> <p style="padding-left: 20px;">③ 次年度の進め方について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 精華町の環境(令和元年度分)</li> <li>・資料2 第2次精華町環境基本計画(案)</li> <li>・資料3 令和3年度スケジュール</li> <li>・参考資料1 第23回精華町環境推進委員会会議録</li> </ul>		

### 1. 開会

- ・健康福祉環境部長あいさつ

### 2. 議事

① 精華町の環境(令和元年度分)について

上甫木委員長 前回ご意見いただいた点については、P9 にまとめられている。また、P10 については新たに示されたものですので、ご意見・ご質問がありましたらお願いしたい。  
確認だが、P10 の子どもたちと環境について、精華町版を作られていたと思うが、何回目か。

事務局 今年度で5回目になります。

上甫木委員長 精華町版ということで、親子の方から何か反応があるか。

事務局 環境日記に取り組む中では、町の取り組みがわかりやすいなど記載をいただいておりますが、直接ご意見はいただいております。先生から環境学習等で活用していただいているとお聞きしています。

上甫木委員長 この他については、特に説明がなかったが前回から変更がないということか。

事務局 前回から変更はありません。

上甫木委員長 特になければ、ご提案の内容で報告していきたいと思う。

② 第2次精華町環境基本計画(案)について

上甫木委員長 第2次精華町環境基本計画(案)について、ご意見、ご質問をいただければと思う。

信田委員 P2 の①②③の意見について、①③については記載しているが、②については実際活動されている内容であるが、追記するという考えはないか。

事務局 ②のリサイクルについては、小型家電などの多岐にわたっていることから、具体的な項目の選択をせずに、このままの記載を考えています。

信田委員 役場が独自に実施していることと、大きな活動に住民が参加する形で実施していることは分けて評価してはどうかと思う。

事務局 ご意見を踏まえて、加筆する方向で検討していきたいと思っております。

- 上甫木委員長 P17 の②のリユースに関わる活動について、追記するということよろしいか。
- 事務局 集団回収や拠点回収に関する具体的な取り組み事例を追記したいと思います。住民参加の観点で追記していきたいと思います。
- 上甫木委員長 委員の意見を踏まえ、加筆修正するということよろしいか。他はいかがか。
- 寺本委員 目標値の④については、町がするのか。企業がするのか。
- 事務局 企業と連携しながら進めていくが、町が企画して発信することを想定しています。
- 寺本委員 企業にもいろいろな職業があるが、基準はどう考えるのか。また、数としても少なく感じる。
- 事務局 今まで企業の取り組み情報の発信はありませんでした。
- 上甫木委員長 ③についても気になった。③の情報発信も具体的にどのような内容かが分かりづらい。
- 寺本委員 各企業で既に実施している内容がある。企業から精華町に掲載してくれという話が出た場合、何を基準にして選ぶのか。例えば5件までと設定した場合、それ以上申請できるかが分からない。その基準について、町から説明をしていただければ、協議会から企業に対する説明も可能になる。
- 上甫木委員長 企業との連携が課題とあり、まずは情報収集および情報共有するということが記載されている。町が年4回の情報収集でしっかり情報を吸い上げ、出すという動きの目途がたっているならば、そのような記載をし、企業の方に情報を積極的に共有していただくことをしてみたいはいかがか。
- 寺本委員 5件とあるが、5件が一法人なのかどうか分からない。協議会を1件と考えるなら、町から具体的な提案がいただければ、協議会メンバーの企業で環境活動に積極的な企業を集めて取材を実施するなど、積極的にご協力していきたい。

- 事務局 まちづくり協議会の事務局にも相談しながら進めていきたいと思ひます。  
企業との連携が課題となっているので、何らかの形で動かしていきたいという思ひでいれさせていだきました。ご指摘いただいた方針や基準については、実際に動かしながらお示していきたいと思ひます。
- 上甫木委員長 目標設定はこれまで議論できていなかったが、いかがか。
- 事務局 書き方は分かりづらひが、毎年、前年度の環境の総括を実施しているので、それぞれどんな取り組みか中身までご紹介し、評価をしていきたいと思ひます。
- 信田委員 ③について、情報発信回数が資源の方は、記載が何もない。発信回数の項目として、「省資源」についても入れてはどうか。
- 事務局 ③については、省資源とエネルギーの2つの内容が含まれています。省資源では、廃棄物計画をもとに廃棄物量の数値設定をしていますが、エネルギーでは、再エネ導入などの数値設定は難しいため情報発信回数としています。  
ご意見を受けて、「省資源」を追加することも一案だと思ひますが、「省資源」に関する情報発信を今まで行われているため、高めの目標値設定が必要になると思ひます。皆さんのご意見をいただきたいです。
- 信田委員 情報発信はとにかくしっかりしたほうが良い。今までも資源については情報発信をしているが、回数はもっと増やしたほうが良いと思ひます。
- 山本委員 10年というスパンなので心配することがある。  
私の住んでいる周りには小学生がおらず、子どものいる若い世代が住んでいない。今後、空き家が増えていくだろう。新しく開発されているところは不動産流通すると思ひますが、我々が住んでいる地域では、車では入れないところが半分以上あり、また、調整区域や土砂警戒区域であるため、家を新たに建て替えようという人はいないと思ひます。  
10年後には家に関する課題も出てくるので、頭の隅においておかないと家が放置されていく。国でも空き家や相続に関する動きがあるが、旧村には大きな課題となるだろう。

- 事務局 P15に空き家の管理については記載しているが、有効活用などは今後の課題となると思うので、引き続き検討していきたいです。
- 中筋委員(代理) 空き家だけでなく、休耕地も増えてくる。この点も大事な問題である。
- 事務局 10年後の目標設定にするかは検討が必要だと思うが、まずは、P15の施策取り組みの表記で掲載していきたいと考えています。
- 上甫木委員長 目標設定の仕方について、目標には定性的なものや定量的なものがあるが、定量的な目標については議論がされていないと思う。  
どのような考えで設定されたのかを説明していただけるか。
- 事務局 経緯としては、リーディングプロジェクトや重点的な課題に関して、精華町らしさがより出る取り組みを選定しました。①では、今まで積み重ねがあり、今後も続けていく環境学習を選び、②に関しては学校給食の地場産物利用を把握されている自治体が少ないことから選びました。  
子どもが里山に触れた回数については、資料編の「子ども向けのアンケート」の結果より、旧村と市街地に住む子どもたちの間に自然のふれあい具合に違いが見られたことから、この自然環境を子どもたちに引き継いでいくために提案させていただきました。  
資源・気候変動については、資源循環の基本である町民1人あたりのごみの量を定量的に確認するために設定しています。再エネ、省エネ、気候変動影響については、国や民間の動向が目まぐるしいので、町単独ではなく、世の中の動向をお知らせすることが重要だと思い、記載しております。  
④については、企業へのヒアリングやアンケートを通して、企業が取り組んでいる活動を町に定期的にお伝えすることが可能だというご意見をいただいていたので、町が企業の取り組みを町内にお知らせすることを重点的に行うために記載しています。
- 上甫木委員長 今のような点を説明として入れていただければどうかと思う。
- 岩本副委員長 ②の給食での地場産物の年間利用回数の割合について記載されているが、中学校の状況はどうか。今年の夏頃から給食センターが建設されるが、ここについても入れる必要があるのではないかとと思うが、いかがか。
- 事務局 現在、記載させていただいているのが食育推進基本方針から引用している

ので、現在中学校の数値については持っていない状況であります。この数値は、令和4年度の目標数値でありますので、次の改定で中学校の数値も設定されれば、環境基本計画の数値も更新していきたいと思えます。

岩本副委員長 10年後の目標であれば、記載することは可能ではないか。

事務局 中学校給食の開始が早くとも令和5年半ばくらいになるので、当初は中間見直しに記載しようと思っていたが、小学校と中学校の数値はさほど変わらなと推察しているので記載できないことはないと思認しております。

岩本副委員長 以前は、前年度以上という目標だった。現状値は15%より低いということか。

事務局 食育推進基本方針の目標設定時には低い数値でした。現状については確認お知らせします。

岩本副委員長 文言について、改訂版では「町内食材の占める割合」であったが、「年間利用回数」になっている。これに何の意味があるのか。

事務局 小学校給食では年間180回程度、地場産物を利用した給食が実施されています。この数え方は、精華町産物の使用量ではなく、種類数により行っています。1種類でも地場産物が含まれている場合は1回としています。

岩本副委員長 全国各地から供給されている。その中で精華町産の食材は限られており、特に葉物が多い。そのことを表すのか。

事務局 量で行うと担い手等の課題から、数値がなかなか伸びない状況になります。

岩本副委員長 これは農業促進することが目的なのか、それとも全国との比較数値なのか。

事務局 1回でも1種類でも回数を増やしていこうという思いで目標を掲げています。説明文章を追記したいと思います。

上甫木委員長 利用回数を増やすことで、田畑の保全につながるという環境サイドの捉え方であると思。中学校の件は、中間見直しで追記するという事でよろしいか。また、定量設定の補足説明を追記していただいた方が良くと思。

- 鷹居委員 学校給食の地場産物の利用の①-2に華工房とあり、環境と地場産業の融合とあるが、華工房の活用があまりできていないように感じる。これがより機能すれば、給食に利用できる割合が増える可能性があると思う。
- 中筋委員(代理) 年末から3月末までお味噌の生産でうまっている。学校給食では、華工房のお味噌が使われている。華工房を使った味噌づくりを行っている場所があり、そういう意味でも地域に貢献している場所だと思う。華工房でもものをつくると、個人単位での保健所への届け出の必要がない。
- 事務局 華工房は出来て24年くらい経過しています。ここは、第6次産業を目指した中で、試作品づくりを中心に行う研究施設という位置づけで建設されました。試作して商品化ができそうであれば、他の場所で生産するという流れがあったため、量産体制をとっていません。  
学校給食では、地域で作られた安心安全の野菜を中心に提供し、また、四季を感じていただくために、季節ごとに地域の新鮮な野菜を提供していきたいと考えていますが、今後増やしていくためには、農家の方に計画生産いただき、買い取りを行って、給食利用するというサイクルをつくる必要があります。小口で行うのであれば、単発的に行うことは可能だが、継続的には厳しい状態です。  
町の子どもたちのためにも踏み込んで検討する必要があると感じています。
- 寺本委員 定量目標について、全体の目標について一部を実施するという流れになっている。学校給食についてももとの目標がない。学校給食とどう環境と関わっているのかという記載がないので、P14～15に記載していただく必要があるかと思う。
- 岩本副委員長 2019年の目標②で学校給食での地元産野菜の提供という項目がある。この内容というのは目標の何なのか。  
休耕地をなくす等の農家促進が目的で、地元産の野菜を供給するのであれば理解はできるが、そのような解釈でよろしいか。
- 事務局 田畑を守るという観点があります。
- 上甫木委員長 現行計画のリーディングプロジェクト内の目標④に記載されていたと思うが、いずれにせよ、学校給食への提供に関する内容の追記をお願いしたい。

目標設定については、中間見直しの際に再度行うが、定量目標については入れて取り組むという形で進めていきたい。ただ、定量目標の位置づけや抽出にあたり、本日いただいた意見を受け、補足的な説明を入れるということで委員長と事務局で調整させていただき、記載するというところでよろしいか。

### ③ 次年度の進め方について

上甫木委員長 次年度も第 25 回～27 回と 3 回環境推進委員会が計画されているが、早めに日程調整をしていただければと思う。  
進め方についてお気づきの点はあるか。

寺本委員 次の 10 年の想いを提出してほしいということで、協議会にも確認した上で提出させていただいた。協議会への要望や提出物に対するコメントが欲しい。また、資料等をデジタルでいただければ、協議会内部でも共有や活用ができる。いかがか。

上甫木委員長 協議会からの要望に対する回答は事務局と調整して、改めてお伝えいただければと思う。

事務局 資料は PDF にてお送りさせていただきたいと思います。

畑中委員 菅政権が 2050 年にカーボンニュートラルが宣言され、いろいろな情報が入ってきている。アメリカのバイデン政権が 4 月に行われるサミットで、2030 年の達成目標 45%と宣言する予定であるので、それを受けて日本の動向も変わっていく。  
その影響を受けて、この計画の中間見直しが早まる可能性がある。

### 3. その他

事務局 本日お示した 10 年後の目標設定については、もう少し議論が必要な内容であり、早く整理を行いご提案すべきであったと反省しております。  
本日もご意見いただいた点について、趣旨をご理解いただけるよう肉付けを行っていきたく思います。また、数値設定の目標についても、事務局で再度精査を行いたく思います。  
今後の予定については、3 月末には計画を策定し、4 月 1 日から実践していく予定です。  
今後計画を推進していくために、この間ご議論いただき、計画に盛り込まれ

た委員の皆様の熱い想いや願いを、わかりやすく情報発信するなどし、実効性のあるものにしてまいります。

今後も引き続き、委員の皆さまの貴重なご意見やご提案をいただければと思います。

本日はありがとうございました。

#### 4. 閉会